

浄土宗 山取寺 報  
念佛寺

# 撮取

第18号

## 暑と寒とを彼岸まで

ここ数日、朝夕がめつきり涼しくなりました。昔から『暑さ寒さも彼岸まで』といいますが、まさにその通りだと痛感いたします。お施餓鬼の時に、ヒガンバナ(彼岸花)とキツネノカミソリの花の違いの話もしたので、今度はヒガンバナの写真を添えました。別名マンジュシヤゲ(曼珠沙華)は梵語で「赤い花」を意味する。その他の呼び方として、「石蒜(せきさん)」「しびとばな(死人花)」「てんがいはな(天界花)」「ゆつれいはな(幽霊花)」「すていばな(捨て子花)」「はみずはなみず(葉見ず花見)



奇りたくな名前だと思えます。この花の鱗茎には毒があるそうです。そのこと以上に江戸時代の農民には

飢饉の時の非常食料で子どもたちが遊んで鱗茎が減ること心配して、近寄らないような名前にしたのではないでしょうか。水にさらして食料や皮膚病の薬にもなった。

## 言葉

為諸衆生 説此経法

(ず)「なごら〇以上の別名があるといえます。ここにあげた別名からは近

## (仏説無量寿経下)

もし衆生あつて、この経を聞く者は、無上道(最高至上の道)において、ついに退転せず(元に戻ることはない)。「この故に、まさに専心に信受し、持誦し説行すべし。仏ののたまゆく。われ今諸々の衆生のためにこの経法を説き、「無量寿佛およびその国土の一切の所有を見せしむ。

## Q&A

Q. 年日(としび)に葬式は出せないの？

仏教の教えにはありません。「年日」を小学館の「日



本国語大辞典第14巻」の記載を見ると、「生まれた年の干支(えと)と同じ干支の日。この日は灸治などを避けたという。また死者の年々の忌日。」とありました。高島暦で葬儀が「凶」とされるとき(〇数字は9月中の日数)を

見ると、六曜の「友引⑤」。中段の「みつ②」。二十八宿の「角①、箕①、危①、室①、参①、柳①、星①」。下段の「重日①、黒日②、十死②」そして年日を「日」や「月」と干支が「日③」や「年」。一日にいくつかの凶が重なる日もあるので一つでも凶とされる日を数えると三十日の内十七日にもなります。

こんなことを考えたら葬儀はいつまで経っても出せません。せめて友引くらいのことだめておきまじょう。

## 編集後記

今回は、ヒガンバナ(彼岸花)とオジギソウ(含羞草)の2つ。ヒガンバナはこの寺ノ壇に妻の実家の勝山から数年前にいくつかの球根を移植したものです。年々株は少しずつ広がっています。もう少し増やしたいです。オジギソウは葉に触れると葉をすぼめお辞儀をしているようです。かわいいピンクのボールのような花がたくさんつきました。夜には葉も花もしばらくの間はみずです。